

アート×学校×地域

猪苗代アートプロジェクトとは?

子どもたちへアートを届け、地域の未来を育むプロジェクト。「ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代」で各学校に描かれた壁画を生かし、子どもたちがアートに触れ、豊かな感受性を養うワークショップなどイベントを随時開催します。猪苗代の学校には今後も壁画は増えていく予定です。地域の大人たちが実行委員となり、子どもたちを主役に、猪苗代町ならではの地域創生を目指します。

芸術祭「ウォールアートフェスティバル」とは?

アーティストを招聘し学校の教室をキャンバスに壁画を描く芸術祭。日本の NPO 法人ウォールアートプロジェクトが 2010 年にインド、ビハール州の学校を舞台に開催したのがはじまりです。 猪苗代町では 2018 年から教育委員会の共催を得て毎年開催。国内外から国際的に活躍するアーティストを招き、6つの学校に 13 の壁画が生まれました。





猪苗代 アートプロジェクト 2021 年の事業内容 芸術祭「ウォールアートフェスティバル ふくしま in 猪苗代 2021『風と森と。』」

とき 2021年11月6日·7日 招聘作家 浅野友理子 大小島真木 滞在制作期間 2021年10月4日~11月5日 制作展示会場 猪苗代町立吾妻小学校 猪苗代町立吾妻中学校

* 2018 年から 2021 年まで6 校に描かれた計 13 点の壁 画すべてが公開され、予約制で鑑賞会が開催された。



ワークショップ 「お気に入りの生き物を探せ」

指導 猪苗代アートプロジェクト実行委員 とき 2021年10月~ 会場 猪苗代町立猪苗代中学校 淺井裕介の壁画作品「野生の合奏」の教室 参加者 猪苗代町立各小学校の児童

「壁画の中でおもてなし

とき 2021年11月6日・7日 会場 福島県立猪苗代高等学校美術室 香川大介の壁画の中で鑑賞者へのおもてなし 主催 猪苗代高校生有志

> ウォールアートフェスティバル ふくしま in 猪苗代 2021 スピンオフ展示「風と森と。」

とき 2021年10月30日~11月7日 会場 はじまりの美術館 参加作家 淺井裕介 浅野友理子 大小島真木 香川大介 スギサキハルナ ツツミエミコ 野口勝宏



「淺井裕介と全校生徒の立体づくり "野生の大合奏"

指導 淺井裕介(画家) とき 2021年9月29日 会場 猪苗代町立猪苗代中学校 参加者 猪苗代中学校全校生徒

> ワークショップ 「森の植物を描く」

指導 浅野友理子 とき 2021年10月25日 会場 猪苗代町立吾妻小学校図工室 対象 吾妻児童クラブ希望者

音楽会「生命の木に抱かれて歌う」

とき 2021 年 10 月 会場 猪苗代町立東中学校全校生徒 スギサキハルナ作品「生命の木」の前 参加者 東中学校全校生徒



パフォーマンス「大地の音・大地の舞」

とき 2021年11月6日(文化祭発表)・7日 会場 猪苗代町立吾妻中学校 大小島真木の壁画「呼吸 -Breathing」の教室 キャスト 吾妻中学校全校生徒 ナビゲーター 大小島真木(仮面づくり指導)・ 信太美奈(演出)・久礼悠介(ダンス指導)・出井智 (パーカッション指導)・須藤みぎわ(音楽指導)・ 遠藤真結子(ダンス指導)



今年も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本町の大きなイベントが中止となりましたが、10月に入りようやく福島県のまん延防止重点措置が解除となり、「ウォールアートフェスティバルふくしまin猪苗代2021」が開催できましたことを実行委員会の皆様とともに喜びたいと思います。

今年は、新たに6校目の会場となる吾妻小学校と、2018年に制作会場となった吾妻中学校の2校で、画家の浅野友理子氏と大小島真木氏による、吾妻地区の風土と人々の暮らしを感じることができる素晴らしい作品の完成を見ることができました。

これまでの4年間に制作会場となった学校の予約制公開鑑賞となりましたが、特に、今年度で廃校となってしまう吾妻中学校では、アーティストの作品と、全校生によるオリジナルパフォーマンスのコラボにより、吾妻地区への郷土愛をより一層強くすることとなり、中学校最後の思い出の1ページとなったことを本当に嬉しく思います。

町内の小・中学校と高校を会場に、アーティストと 児童生徒が協働で表現した作品は、子どもたちの感性 を育むとともに、多くの方々との交流を通して自分自 身を成長させる新しい学びの場となり、アートの力が 地域交流の大きな力となっておりますことに、あらた めて敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げま す。

これからも、この事業を通して町内の学校が、地域のさらなる交流の場となることをご期待申し上げますとともに、猪苗代アートプロジェクト実行委員会の益々のご活躍と、皆様のご健勝をご祈念申し上げあいさつといたします。

2021年12月14日 猪苗代町教育委員会教育長 宇南山 忠明

吾妻小学校に描かれた「脈」、そして吾妻中学校の「呼 吸 - breathing I。この2つの作品は、吾妻の風景・風土・ 伝承が描かれただけでなく、閉校が迫る学校だからこ その思いと、故郷を思う子どもたちの願いが込められ、 いっそうの存在感を放っています。この作品が新たに 加わり、今年で4回目を迎える「ウォールアートフェ スティバルふくしま in 猪苗代」がもたらしたもの。そ れは、いうまでもなく町内6つの学校に描かれた13 の珠玉の作品たちです。ただ、それだけではない"何 か"が確実に芽生えている。そう考えた私たちは、「猪 苗代アートプロジェクト」と銘打ち、学校に描かれた アート作品を軸に、子どもたちを「主」としたプログ ラムの展開を試みました。小学生を招待した猪中アー トルームの鑑賞会では、想像力を刺激された子どもた ちが心躍る物語をいくつも牛みだしてくれました。ま た、間もなく統合となる3つの中学校では、アートと 生徒のコラボレーションが実現。猪中生 200 人のエネ ルギーが凝縮された「野牛の大合奏」でにぎやかな演 **秦が始まれば、東中ではホールいっぱいの壁画に歌声** が響き渡り、吾妻中では作品の中での渾身のパフォー マンスが披露されました。さらに猪高では、牛徒発案 によるおもてなしで鑑賞客を迎えるという、新たな アート作品の活用が図られました。こうして、「アート」 と「学校」と「子どもたち」が互いに呼応しながらー つのものを創造し、特別な場所と特別な時間がいくつ も生みだされたのです。ウォールアートフェスティバ ルでもたらされたものは何か、アートにより開かれた 新たな扉の先に何があったのか。この記録誌で少しで もその熱が伝わればと願っています。さあ、「猪苗代 アートプロジェクト」の世界にようこそ!

> 2022年2月20日 猪苗代アートプロジェクト 実行委員長 楠 恭信

過去三年間の「ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代」を通して、アーティストたちが猪苗代で暮らす人たちに出会い、学校で滞在制作をし、そこに通う子どもたちと交流をしてきました。昨年までに11 の壁画が生まれ、今年はそれらを深めるために「猪苗代アートプロジェクト」へと新しいステージを歩み始めた年でした。

今年の招聘作家である大小島真木さんと浅野友理子さんは、吾妻地区という同じエリアをリサーチし、それぞれ吾妻中学校と吾妻小学校で滞在制作を行いました。吾妻地区は2018年にインドのワルリ画家ラジェーシュ・モールさんが訪れているのでリサーチのための下地がありました。その時にお話をお伺いした方とも、今年はさらに関係性を深めることができました。滞在制作に入る前に生徒たちに同行した源流を巡るフィールドワークなども、それぞれの作品に色濃く反映されました。

そして、すでに壁画がある町内の3つの中学校で実施された生徒たちによるプロジェクトは、アーティストや壁画の力を借りて、彼らにしか表現できないものが生まれました。さらに、今年もコロナ禍が続くなか人数を絞っての鑑賞会は、昨年迷いながらも実施した経験がしっかりと蓄積されているのを実感しました。猪苗代高校では壁画が生まれた美術室を生徒たち自身でカフェのように活用したいと、試行錯誤しながら場所作りを行い、鑑賞会の日に参加者をもてなしました。

今年を振り返ると、続けてきたこと、残してきたものが着実に根を張り、たしかな芽吹きを感じた一年でした。「猪苗代アートプロジェクト」は、少しずつこの輪を広げてさらに深化していきます。

2022年2月22日 猪苗代アートプロジェクト 副実行委員長 小林 竜也 継承

猪苗代町立吾妻小学校長 原田 知幸

絵を描く際には机上の画用紙に鉛筆で描いたり消したりを何度も繰り返して下描きをします。そして十分に水を含ませた筆に少しだけ絵の具をつけて彩色をします。こんな作業を繰り返してきた私たちにとって、ウォールアートはまさに衝撃でした。

学校のすぐ脇を流れる長瀬川は、太くなったり細くなったりしながら蛇行する赤い線でダイナミックに表現され、 東西南北4つの壁面を貫いています。川の流れは地域の人々の中に流れる血液であり、受け継がれてきた自然・生活・ 文化・信仰そのものとして繊細に描かれています。

制作に先立ち、子どもたちと作家の浅野友理子さんは、地域の見学や川の源流の散策などを一緒に体験しました。 制作に入ると、浅野さんと子どもたちは自由に対話を重ねていました。そうした積み重ねは、子どもたちの作品に対 する理解や親近感の深さにつながっているように感じます。

図工室の壁は大胆かつ繊細に彩られ、図工室というその名にふさわしい空間に生まれ変わりました。そこで学ぶ吾妻っ子たちには、吾妻の自信と誇り、そして実行委員やWAFスタッフの皆様の地域・学校・子どもたちに対する熱い思いが脈々と継承されていくものと信じています。

感性を【引き出し】、「野生の合奏」から「野生の大合奏」へ

猪苗代町立猪苗代中学校長

横山 泰久

「ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代 2019」で猪苗代中の1つの教室に1つの音楽が生まれていました。淺井裕介氏の「野生の合奏」です。本校に着任し、初めて一人でその教室に足を踏み入れたときの感覚は今も忘れません。天井までの全面に描かれた作品に包み込まれ、圧倒されながらも心地よいメロディー「野生の合奏」に魅了されました。そして 2021 年秋、あらためて淺井氏が来校し生徒たちとともに作品を進化させてくれました。

私たち教育者は、常日頃から生徒たちの能力を高めようと頑張っています。「教える」「育てる」という姿勢より、本来持っている生徒の能力を【引き出す】ことが教育の本質と言われます。淺井氏は生徒たちの感性を【引き出し】、

形として表現させるために様々な声かけや関わり方をされていました。次第次第に形になる作品に生徒たちの目は輝き、全員が芸術家になっていました。芸術の素晴らしさはもちろん、淺井氏の【引き出す】力に驚くとともに、とても勉強になる時間でした。

生徒たち一人一人の作品はどれも素晴らしく、鑑賞していて時間を忘れてしまいます。そして、それらの集合体が「野生の大合奏」という特別な雰囲気を醸し出し、悠久のハーモニーを奏でています。閉校により存続できない 教室であるがゆえに、存在できる時間がとても貴重であると感じます。

本事業を進めてくださった実行委員会の方々、淺井氏に感謝し、心のアルバムに残していきたいと思います。

ウォールアートフェスティバルを終えて

猪苗代町立吾妻中学校長 古川 雅秀

美術家の大小島真木さんには3週間にわたって吾妻の自然を題材として教室にウォールアートを描いていただきました。いつも笑顔を絶やさず接していただき、ウォールアートはもちろん、大小島さんご自身からパワーをいただいた気がいたします。そして、文化祭の全校制作にもご指導をいただき感謝しております。

閉校後も本校校舎は残るようですので、吾妻地区のシンボルとして、地域の方々に喜ばれるウォールアートになりそうです。演出家の信太美奈さんには、情熱溢れる指導をしていただきました。恥ずかしがり屋の生徒たちを時には励まし、そして、パーカッションやダンスなど生徒の個性を生かしながらの役割を適材適所に与えていただきました。また、パフォーマンスの中には吾妻への感謝の詩や歌があり、子どもたちが郷土愛を育みながらパフォーマンスが発表できたと感じています。

そして、本校最後の文化祭での発表会を迎えました。吾妻地区を題材とした壁画、吾妻地区への感謝のパフォーマンスは、生徒たちにとって閉校を迎える吾妻中学校の思い出になったとともに、発表する度にたくさんの拍手をいただき、そのことが生徒の自信になり、自己肯定感へ繋がったと感じています。

お陰さまをもちまして、生徒たち、そして我々教職員にとっても、感慨深い文化祭、閉校行事となりました。文化 祭での閉校セレモニーでは、実行委員長の生徒が、吾妻中学校がなくなっても、吾妻の心は忘れず伝えていくことを 宣言していました。生徒が本事業を経験して、我々が目指す郷土愛が育まれていることを確信することができました。



大小島真木「呼吸 - Breathing」

この地に染み渡る水は雪解け水、やがて土から滲み出て湧き水となる。 安達太良山から硫黄川、酸川へと硫黄が流れていく。 長瀬川が酸川と混ざった時、川は赤くなる。鉄の赤だ。僕たちの身体にもたくさんの水が流れている。川は僕たちの血だろうか。

山は生きている。磐梯山は手長足長となり、太陽を隠し、雨を降らし、風を起こす。高い山には神さまが住んでいる。山々は息を吹く。この地そのものが山々の息吹と共にずっと動き続けている。

カルデラ大地に根付いたアカマツに集まってくる鳥、虫、微生物、菌たち。さまざまな生き物たちの糞や死骸、落ち葉が混ざり、腐葉土が作られ、カルデラの大地は少しずつ変化していく。 やがて飛んできた種が腐葉土に根付く。 新しい命がそこに芽吹いていく。 Human ヒューマン(人間)の語源は Humus フムス(腐葉土)だという。僕たちもまた土に芽吹く命だろうか。

山々を見上げ、水の流れを辿りながら、 この大地のことを思う。連鎖していく命 の営みに僕たちの身体を重ねる。大地を 抱く。大地に抱かれる。僕たちはこの地で、 呼吸する。











吾妻中学校における壁画の中でのパフォーマンス「大地の音、大地の舞」の様子。磐梯山をモチーフにした壁画をバックに、 自分たちで作った仮面をかぶり、吾妻地区についての詩を朗読する3年生女子。練習を重ね、全校生徒で演じ切った。

自然の葉や木、布を使って自分だけの仮面を作ったり、その仮面をつけてきれいな壁画に囲まれてパフォーマンスができて本当に楽しかったです。自然も私たち人間のように血が流れていて呼吸をして「生きている」。自然は人間といっしょであることに気づかされました。これからも猪苗代の美しい自然をまもっていきたいです。

素敵な壁画をありがとうございました。今年で閉校となってしまい、来年は見ることができないので、今年のうちにいっぱい見ておこうと思います。 2年男子

私は人前に立って何かを発表するのがとても苦手でした。けれど、今回のパフォーマンスをやって「楽しいな」と思いました。自分を変える大きな一歩を踏み出せた気がします。 1年女子

みんなでひとつのパフォーマンスを成功させることができてとても思い出に残りました。詩や歌詞に自分たちの想いを込められてよかったです。 3年女子

わたしたちの きぼうかたしたちの きぼうわすれられぬ このがおり

ぼ だ さ の い の さき い か お り まは う い ち は り は がきせることができ まは り まは り が お り は 3年女子 パーカッショニストの智さんは最初すごく怖そうだと 思っていましたが、話してみるととても優しい人だな、と思いました。いっしょにお話できて楽しかったです。 2年女子

はな

てが

吾妻中生の声(抜粋)

僕はダンスが嫌いでしたが、ウォールアートフェスティバルをして好きになりました。2年男子

僕は最初、信太美奈さんが少し怖かったです。「笑ってごまかすな」と言ったところとか。でも、そこで怒ることができるほど自然に対する想いの強さを持っているのだと僕には感じ取れました。 2年男子

みずうれ

ちは つづく

壁画に手長足長が描いてあるのも面白いと思いました。 3年女子

仮面づくりが特に楽しかったです。素材を集めて作ることは、猪苗代の自然を使っていることなのだと気付きよかったです。 2年男子

最初のダンスの練習でつまらないと思いましたが、 練習をしていくうちにとても楽しいと思いました。 2 年男子

教室一面の壁画に猪苗代の新しい世界を感じた。

大地にはいろいろな音がある のだなと改めて思いました。 1年女子





浅野友理子「脈」

吾妻の山々に自生する植物たち。壁面にはこの土地の人たちの 営みに欠かせなかったいくつもの植物の姿を描きました。

そして、脈打つような赤い川が流れています。教室を取り囲む赤い川は、人々の中に流れる血であり、受け継がれてきたものそのものを表しています。川として描き始めた線と植物たちは、日々の出会いとともに変化をしながら、教室一面に広がっていきました。

春、山菜が芽吹きます。竹藪をかき分けると、根元にはたくさんの根まがり竹が生え始めます。ぐんぐんと成長しながら、食べられるときを待っているようです。

夏の終わり頃、子どもたちと一緒に川の源流を目指して歩きました。 野山を歩いてアケビ、コクワ、ヤマブドウ、三種類の木の実を拾いました。

秋にふたたびこの地を訪れ、蔓の採集に出かけました。アケビ の実と葉を探して、蔓を辿ります。細い蔓は獰猛に樹木に絡み つき、地面にしっかりと根を張っていました。

柱には大きな一本の桑の老木を描きました。この辺りは昔、一面が桑畑でした。ようやく出会えた桑の木の前で、お蚕さまのための桑の葉そぎの様子を見せてもらいました。すぐ隣には蕎麦畑が広がっていて、収穫間近のようです。その場所にはかつて人が住んでいて、水害によって集落ごと移動したということを知りました。この小学校のある集落もまた、そのときに移り住んだ土地なのだそうです。

土地のもつ様々な歴史や脈々と受け継がれてきた文化が、絡みつく蔦やどっしりとそびえたつ樹木の姿と重なり合います。

持ち運べる和紙には果実や種子、花々を描きました。種子は子 どもたちの手で浮かべられた笹舟に乗って、赤い川の上をどこ までも、軽やかに進んでいきます。













見てみたらおじそうさまがありました。たけやぶもありました。なんかどきどきするようになりました。1年女子

吾妻小生の声(抜粋)

葉っぱの模様がどれも違うので、よくかんさつしているんだな、と思いました。 3年女子 たなの中までかいていてすごい ですね。 2年男子

命と命をつないで、命にみちあ ふれているように見えました。 6年男子

いろいろなところに手がかいて あって、探すのも楽しいです。 6年女子

浅野さんといっしょに行った場所の思い出を絵に表していてわすれられないと思いました。 4年女子

図工の授業のとき、自然にかこ まれている感があって気持ちが いいです。 4年女子



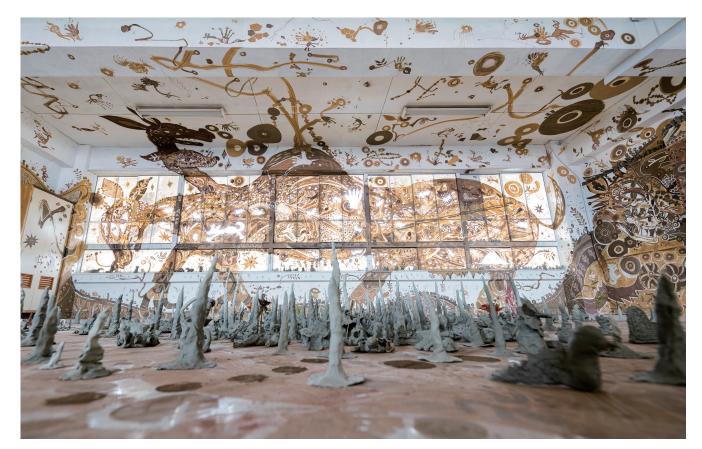
植物がおどっているように感じました。 6年男子

昼休みのたびに見に来ると、どんどん完成に近づいているのが楽しかったです。 6年女子

窓にそばの絵がかいてあって、日 があたると、床にうつる工夫もす ごいと思いました。 6年男子

桑の老木に蚕がかいてあり、すごいなーと思いました。 6年男子

脈の流れにそって植物が育っていく、そのはっそうがすごいと思いました。 5年男子



「野生の大合奏」淺井裕介と猪苗代中学全校生徒

2022 年新学期から町内3つの学校が統合され、猪苗代中学校は大きな新校舎へシフトすることが決まっている。旧校舎はまもなく取り壊され、2019 年に淺井裕介によって描かれた壁画「野生の合奏」は校舎ごと消えゆく運命にある。この部屋は「アートルーム」と名付けられ、生徒たちの集いの場として活用された。そんな旧校舎時代の思い出を心に刻み新しい一歩を踏み出す糧となるよう、在校生全員と淺井裕介による立体作品をつくるワークショップを開催した。壁画の中に塑像粘土から無数の立体物が加わりインスタレーション作品「野生の大合奏」となった。「野生の大合奏」は「ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代 2021」で限定公開となった。また、立体作品の一部は「はじまりの美術館」に展示された。





ワークショップ「お気に入りの生き物を探せ」

淺井裕介により猪苗代中学校に描かれた壁画「野生の合奏」には無数の生き物が描かれている。町内の小学生を猪苗代中学校の壁画の教室に招きワークショップを行った。児童は以下の4行程を楽しんだ。①お気に入りの生き物をみつける②画用紙に鉛筆で模写する③生き物に名前をつける④その生き物を主人公にした物語を作る。これらの作品は公式ホームページにアーカイブする予定。



音楽会「生命の木に抱かれて歌う」

合唱が盛んな東中学校。猪苗代の土や顔料で命の循環を描いたスギサキハルナ作品「生命の木」の中で、全校生徒の美しい歌声が響いた。その様子は映像でアーカイブされ、「はじまりの美術館」で披露された。



「壁画の中でおもてなし」

香川大介の壁画「目をとじて この世界は 感じるままに」の中で、猪苗代高校生が地産地消をテーマに開発したおやつでティータイム。鑑賞ツアーのお客様からは「おいしいね!」の声が多数あがった。壁画を活かしたいと、高校生が自主的に企画。



スギサキハルナ ワークショップ「はじまりの生き物を作る」

スピンオフ展示

「風と森と。展」@はじまりの美術館

森は私たちが二足歩行をはじめたところ。 そこを駆ける風は想像を運ぶ、知恵そのもの。

深い森に畏れを抱かない人はいません。

濃い緑の匂いを放つ森は、人知を超えた何ものかの気配をはらんでいます。

そびえる木々に囲まれると、知り得ない時の流れを感じます。遠い祖先の、人類よりはるか昔の、原初の生命体の記憶なのかもしれません。

そして生まれ出た私たちは常に風とともにありました。はるか縄文人も、私たちと同じように風をその身に受けて生活していました。風があるから私たちは、山の上の木々がそよぐさまを見上げ、空飛ぶ鳥に思いを馳せ、未来を想像するのではないでしょうか。風は、今ここにある地つづきの場所ではないどこかへ私たちをいざないます。

風の強い地域でもある猪苗代のみなさんは風にとても敏感です。そしてとても先進的な精神を持っているように思います。

今年4回目となる「ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代」は、山間部・吾妻地区の、隣り合わせの小学校と中学校の教室で壁画を滞在制作しました。猪苗代湖に流れ着く水をどんどん逆行して源流を訪ねることから始まったフィールドワークや、地元の方に話を伺うヒアリングは、アーティストたちの興味をかき立てました。2021 年の招聘アーティスト浅野友理子、大小島真木の壁画には、赤い川や硫黄の色や木々の姿が取り込まれていきました。

なぜそんなにも、森は私たちを魅了するのか。

いつしか、吾妻地区のフィールドワークは、私たち自身の生命の探索になっていきました。

このスピンオフ展示には、WAFに招かれてきた、日本各地からのアーティストが集合していますが、同調するようにこぞって森へ、野生へ、土へと目を向けて、表現していることが伝わってきます。

コロナ禍で閉じこもりがちの心に、

閉校や統合で別れや出会いを経験して揺れ動く子どもたちの心に、

一陣の気持ち良い風が吹き込むことを願って。

2021 年 10 月 ウォールアートプロジェクト アートディレクター おおくにあきこ

スギサキハルナ「月の人」2021 土 灰 煤 胡粉 顔料 木製パネル 綿布











- 1. 香川大介「鳥の子」2019
- 2. 自分の作品を持ち帰る楽 しさ
- 3. 粘土をこねる感覚を味わう醍醐味
- 4. 香川大介ワークショップ 「もののけ作り」

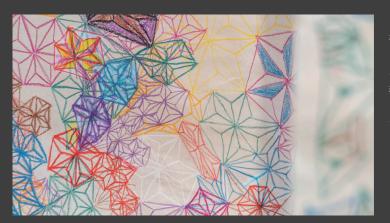








浅野友理子「耕地の緒」 パネルに石膏地 油彩 水干絵具 岩絵具 2016



日本古来の麻の葉模様は、丈夫な植物である麻の性質にちなみ、身を守る模様として着物や産着に使われてきた。点々を打って、線で結んで……と夢中になって描くうちに、描く人の個性が生まれ、やがてワークショップに参加する人と人を結ぶ模様となる。

ツツミエミコ ワークショップ「終わらない模様 麻の葉を描こう」 和紙 油性クレヨン 2021



大小島真木「連作《種子》-猪苗代の地に学び、意識の土に芽吹いたばかりの"思考の種たち"」 藍染めコットンペーパー ペン アクリル絵具 塗料 2021



淺井裕介 猪苗代中学校でのワークショップ「野生の大合奏」の立体作品の一部 塑像粘土 土

主催

猪苗代アートプロジェクト実行委員会

共催

猪苗代町教育委員会 ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代実行委員会 社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館 NPO 法人ウォールアートプロジェクト

助成

令和3年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)補助金

後援

猪苗代町 一般社団法人猪苗代観光協会 福島民報社 福島民友新聞社

会場協力

猪苗代町立吾妻小学校 猪苗代町立吾妻中学校 猪苗代町立猪苗代中学校 猪苗代町立東中学校 猪苗代町立翁島小学校 福島県立猪苗代高等学校

協賛

貝印株式会社 ポーラスター株式会社 有限会社ホーライハウジング 薮内利明 長照寺 有限会社ブルーベア 有限会社六和林業 のうのば 道交会 NPO 法人猪苗代研究所 株式会社 UR 補償技術研究所未夏 with LAKE SIDE HOTEL みなとや 社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館 有限会社吾妻食品 株式会社まるよし建材センター おきなしま大人こども歯科クリニック 株式会社アウレ 株式会社アセラ 大竹歯科医院 医療法人社団敬天会小川医院 斎藤歯科医院 有限会社国分木材店 小西食堂 小林澄子 有限会社田村屋旅館 株式会社 teamMakes 有限会社ドライブイン磐尚 土津神社 花見屋旅館 磐梯西村屋 平澤屋 ふくすべるく 万葉亭ミーナ企画 森の旅亭マウント磐梯 本田啓之 澁谷建設株式会社 渡部産業株式会社 Roots 猪苗代 渡八商店 五十嵐ファミリー

協力

ベンジャミンムーア ターナー色彩株式会社 安部なか

猪苗代アートプロジェクト 「ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代 2021」

構成

ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代実行委員会

写真

あきんどクリエイション合同会社

表紙絵

浅野友理子 「脈」の一部

デザイン

小栗千隼

発行日

2022年3月10日

発行所

有限会社ブルーベア http://blue-bear.co.jp 〒 157-0065 東京都世田谷区上祖師谷 7-6-1-201 TEL 03-5314-7636

印刷・製本 シナノ印刷株式会社



ウォールアート フェスティバル ふくしまin猪苗代

©2022 猪苗代アートプロジェクト実行委員会 http://wafes.net/inawashiro Printed in Japan

本書掲載の記事・写真などの無断掲載・複製・転載 ならびに情報システムへの入力を禁じます。

